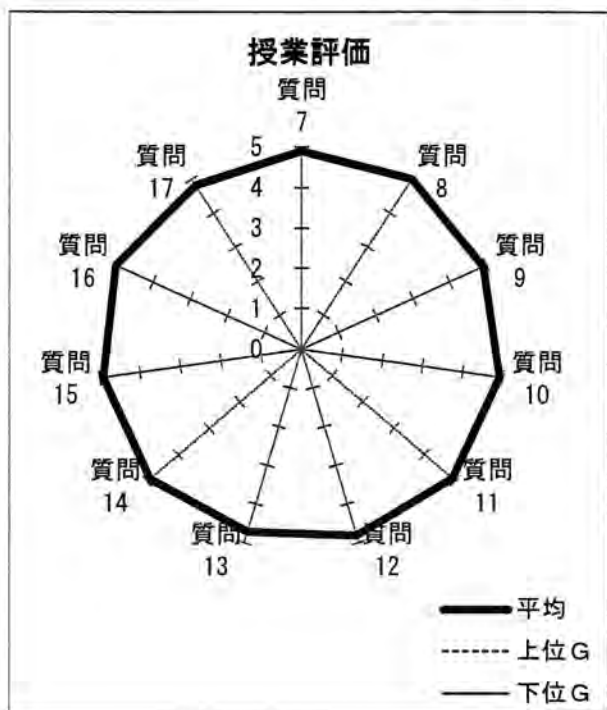


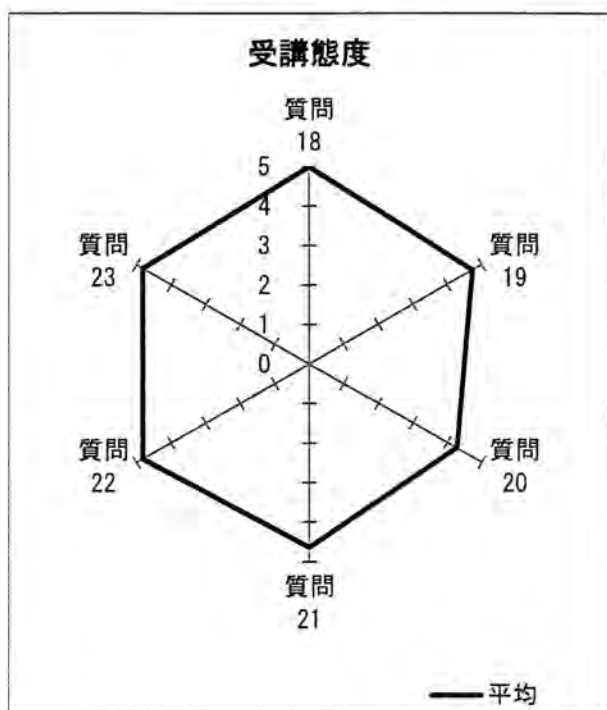
科目コード 704 (2018年度 後期)

健康生活学部 生活デザイン学科 寺田 貴子 長崎の染織



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.8	4.8	#DIV/0!
質問13	4.7	4.7	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	4.7
質問20	4.3
質問21	4.6
質問22	4.8
質問23	4.8
平均	4.7

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活	生活デザイン	寺田貴子	長崎の染織	13

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

教員の授業に対する質問項目の 7 から 17 について、各評価の平均値は 4.7 から 5.0 の範疇にあり、全平均値は 4.9 であった。最も評価が高かった項目は 5.0 で、2 項目あり、その内訳は、質問 8「教員の授業時間遵守」、質問 16「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」であった。次いで評価が高かった項目は 4.9 で、7 項目あり、それぞれ、質問 7「授業の目標説明とシラバスに沿った実施」、質問 9「教員の話し方」、質問 10「教材・機器・板書等の効果的な使用」、質問 11「教員の説明のわかり易さ」、質問 14「学生の理解度の確認と授業への反映」、および質問 15「(自分は) 授業を理解できたと思うか」であった。

全 11 項目の質問に対する評価結果を示した「レーダーチャート (クモの巣グラフ)」の形状は、大きな円に近く、評価のばらつきが小さい、バランスがとれた形であることから、本授業は受講生から好評価を得たとみなすことができよう。

学生自身の受講態度に対する質問項目の 18～23 については、最も評価が高かった項目は質問 18「(自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか」の 5.0 で、次いで、質問 22「レポート・課題等に積極的に取り組んだか」、質問 23「私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴」の 4.8 であった。他方、最も評価が低かった項目は質問 20「欠席回数」の 4.3 であった。

全 6 項目の質問の平均値は 4.7 であり、その「クモの巣グラフ」の形状は大きな正六角形に近く、評価のばらつきが小さい、バランスがとれた形であることから、受講生の態度は概ね良好であったことがわかる。

本授業「長崎の染織」は、生活デザイン学科の専門分野における選択科目であり、免許や資格等に直接関わるものではないが、地元・長崎の地で伝統的に継承されてきた「長崎刺繍」「島原木綿」「長崎更紗」のうち、「長崎刺繍」の基礎技法である「日本刺繍」を学習対象とした授業(実習)である。受講生にとっては、予想以上に課題作成に手間がかかり、なかなか思うような出来映えにならないことに苦戦していたものの、根気強く丁寧に取り組んだことへの達成感は得られたようであった。本アンケートの結果から、授業は受講生から興味・関心・意欲を引き出すものであったと評価され、受講生は積極的に授業にとり組んだことが把握できると、分析・評価する。

II. 2019 年度に向けての取り組み

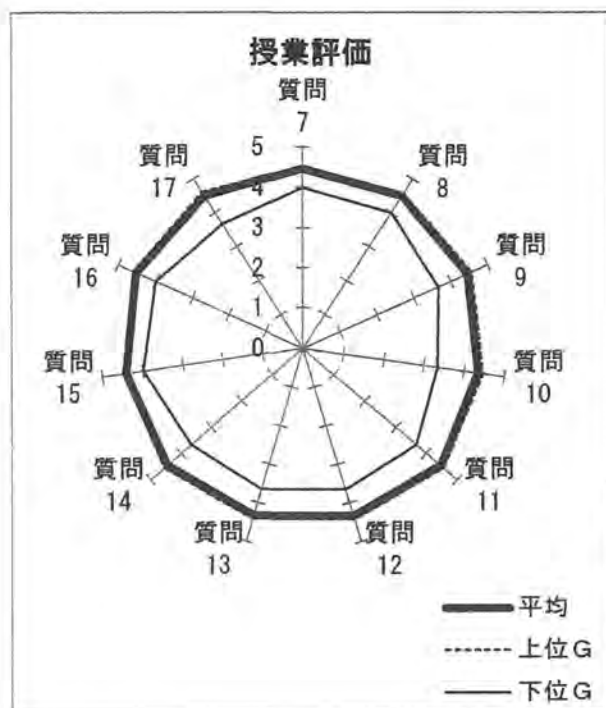
2019 年度担当予定科目名：「長崎の染織」

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

- (1) 授業評価の平均値が 5.0 と高かった、「授業時間厳守」や「興味・関心・意欲を引き出す」ことについては、次年度も継続して真摯に取り組む。
- (2) 授業評価の平均値が 4.7 と比較的低かった、「質問機会の確保と質問への適切な対応」については、授業中・授業後の自身の振り返りを強化して、いっそうの確保と対応ができるよう改善していく。
- (3) 本授業は、学科専門科目として 2019 年度後期にも開講される予定である。受講生にとって理解しやすく有為な授業となるように、継続して点検を行いつつ、効果的な改善に取り組んでいく。

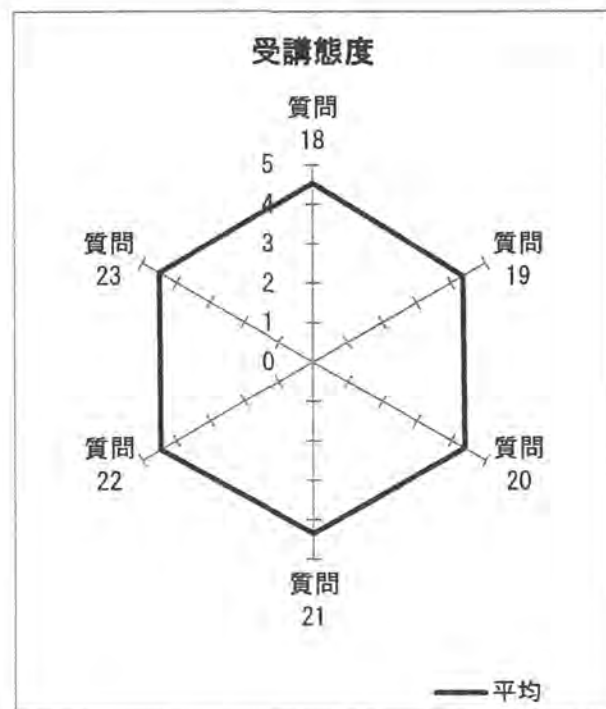
科目コード 705 (2018年度 後期)

健康生活学部 生活デザイン学科 橋口 剛 建築製図



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.5	4.5	4.0
質問 8	4.5	4.6	4.0
質問 9	4.5	4.6	3.7
質問10	4.3	4.5	3.3
質問11	4.5	4.6	3.7
質問12	4.3	4.4	3.7
質問13	4.3	4.4	3.7
質問14	4.5	4.6	3.7
質問15	4.4	4.5	4.0
質問16	4.5	4.6	4.0
質問17	4.5	4.6	3.7
平均	4.4	4.5	3.8

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は)授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.3
質問20	4.4
質問21	4.3
質問22	4.5
質問23	4.5
平均	4.4

- 質問18 : (自分は)授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数(0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	生活デザイン学科	橋口 剛	建築製図	30名

2018年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2018年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

3年生の授業にして、当生活デザイン学科における、最もハードな内容の授業の一つとなるのが、建築製図の授業である。基礎製図において、修得した手描きによる建築図面の作成から、CADを用いたコンピューターによる建築図面の作成へと発展した授業内容となっており、建築図面そのものへの基本的な理解と、CADによる作図するという技能を修得する必要がある、応用的な内容であるため、基礎的な素養のない生徒には、少しむずかし授業レベルとなっている。この点において、一人の生徒も脱落することなく、生徒の授業への評価は総じて、良好なものとなっているのは、そうした噛み砕いた説明と授業構成への工夫の結果と受け止めている。

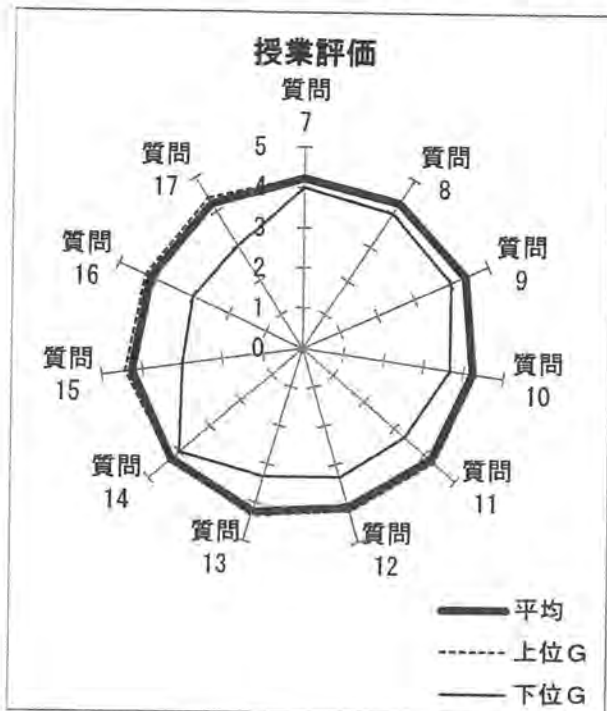
II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：建築製図

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)
2019年度の当授業は、新カリキュラムへ移行してから初めての授業ということもあり、初年度の授業ということもあり、試行錯誤をしながらの授業となった。2019年度は、生徒にさらに考えさせる授業内容に少しシフトしていきたいと考えている。内容がハードな部分も多いため、生徒の学習意欲が低下しがちであることから、生徒自身が積極的に授業参加を行える授業内容としていく予定である。

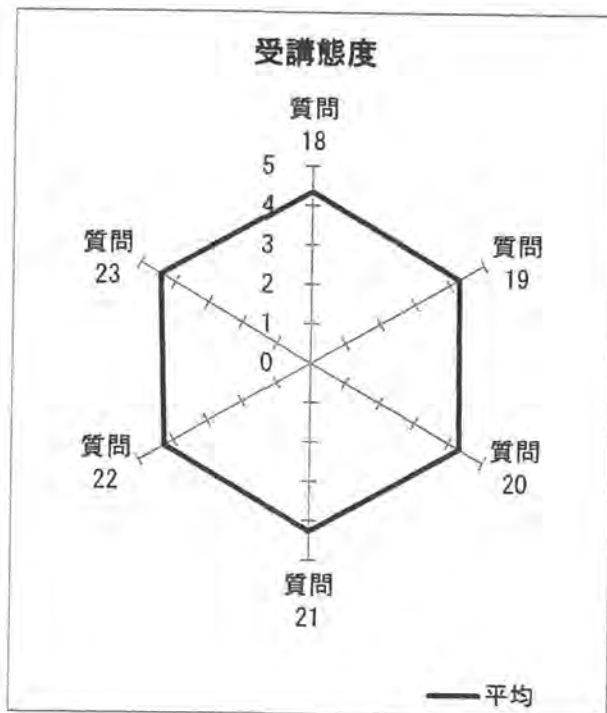
科目コード 706 (2018年度 後期)

健康生活学部 生活デザイン学科 橋口 剛 建築構造学



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.2	4.3	4.0
質問 8	4.3	4.3	4.0
質問 9	4.4	4.4	4.0
質問10	4.2	4.3	3.7
質問11	4.2	4.3	3.3
質問12	4.1	4.2	3.3
質問13	4.2	4.3	3.3
質問14	4.3	4.3	4.0
質問15	4.3	4.4	3.0
質問16	4.2	4.3	3.0
質問17	4.2	4.4	3.0
平均	4.2	4.3	3.5

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.3
質問19	4.3
質問20	4.3
質問21	4.3
質問22	4.3
質問23	4.4
平均	4.3

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	生活デザイン学科	橋口 剛	建築構造学	27名

2018年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

建築構造学は、建築をハード的側面のみならず、ソフト面にも注釈し、総合的に理解するための講義であり、建築分野においては、基本講義のひとつといえる。

講義においては、アクティブラーニングを主体として、建築を構成する要素となる様々な事象について、調査分析させる試みを行った。グループワークにおいては、チームワークの良いグループとそうでないグループとで、出来栄えに差が見られるなどの課題も見られた。

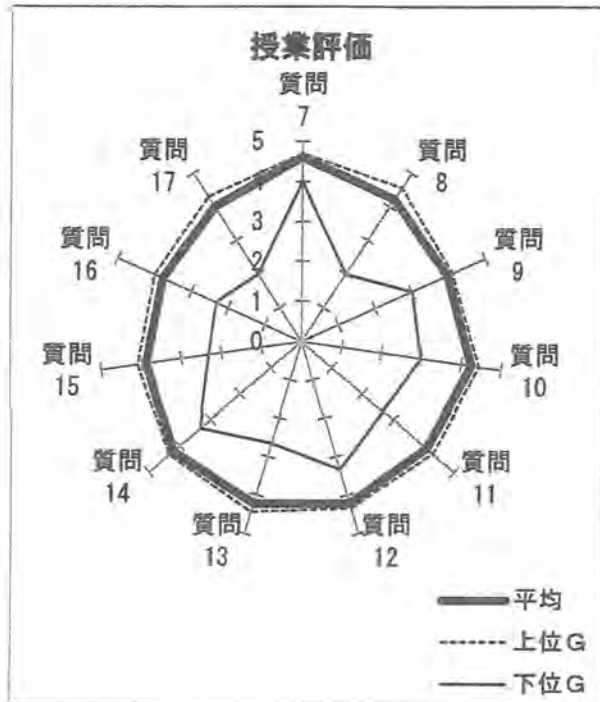
II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名： 建築構造学

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。) より、体系的に深い学びにつながるように、教科書を主体とした講義と、アクティブラーニングによる体験的学びを通して、学生の興味を持続できる取り組みを行いたいと考えている。

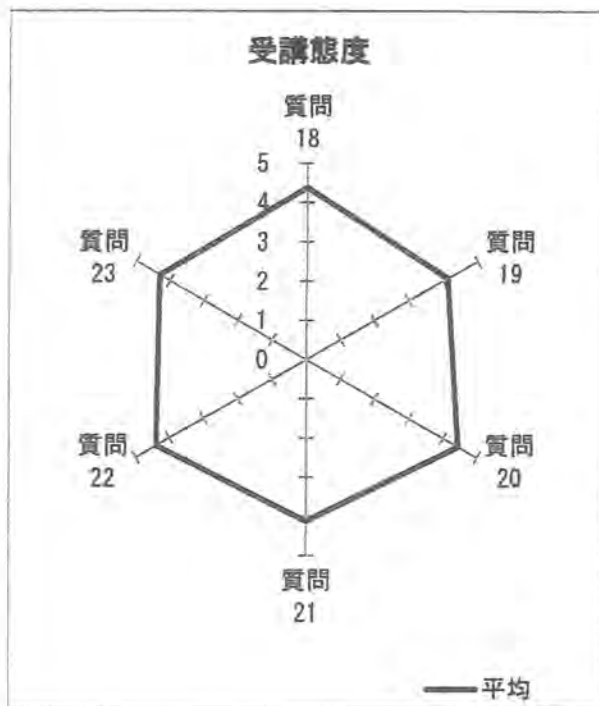
科目コード 707 (2018年度 後期)

健康生活学部 生活デザイン学科 毛利 洋子 建築設備



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.7	4.0
質問 8	4.2	4.6	2.0
質問 9	4.0	4.1	3.0
質問10	4.3	4.5	3.0
質問11	4.1	4.3	2.7
質問12	4.2	4.4	3.3
質問13	4.2	4.5	2.7
質問14	4.2	4.4	3.3
質問15	3.9	4.1	2.3
質問16	3.8	4.0	2.3
質問17	4.0	4.3	2.0
平均	4.1	4.3	2.8

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	4.1
質問20	4.4
質問21	4.1
質問22	4.4
質問23	4.3
平均	4.3

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	生活デザイン学科	毛利洋子	建築設備	26

2018年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

全体の評価が4.1と低く、シラバスに沿った実施以外は、全体の平均評価前後となっている。以下に、個々の項目についての分析と評価を行う。

シラバスに沿った実施に関しては、高い評価であり、内容の実施自体は特に支障は無かったと考える。

教員の授業時間遵守に関しては、下位の評価が2と低い。しかし、極端な授業時間への遅れ、早くに終わる様なことはしていない。開始後の配布資料を配る時間や、パワーポイントを活用する為に、設定等に要した時間、又は、チャイムと同時に説明を終了し、その後、時折、提出物を提出して帰るように促したことが影響し、移動を含めた次の授業への影響があったのかも知れない。

教員の話し方に関しては、マイクを使った説明を行ったので、声の通りが悪かった訳では無いと思われる。説明する時間、記述する時間、明確に分けることが、必要かもしれない。又は、単調に話す為、学生の印象に残らない説明となっている可能性もある。

教材、機材の効果的な使い方に関しては、パワーポイントの活用が主になる為、記述のペースや教科書との関連がわかり辛かった可能性がある。

教員の説明のわかりやすさに関しては、下位の評価が2.7と低く、上位4.3も高くないため、全体的に、わかりやすさにかけているようだ。今後の改善が必要である。

授業環境に関する配慮に関しては、特に上位が高くも、下位が低くも無く、気付いた際の対応を心がけていく必要がある。

質問に関しては、講義形態で、教室が必要以上に広がったこともあり、個々の対応が難しかった。下位の評価が低く、上位との開きが大きい。何かしら、聞きたかった事が聞けない状況が発生していたかも知れず、段階を追って質疑の時間を確保する事が必要と考えられる。

学生の理解度の確認と授業への反映に関しては、上位と下位の差が少ない。全体の理解度の上昇に今後、努めていく必要がある。

授業への理解と興味関心に関する評価が低い。上位の評価も低い為、全体的に分野への理解が低かったと思われる。建築物の事例など、加えてみたが、この反響なので、身近な話題など、興味関心に繋がる話題の充実を試みる。

II. 2019年度に向けての取り組み

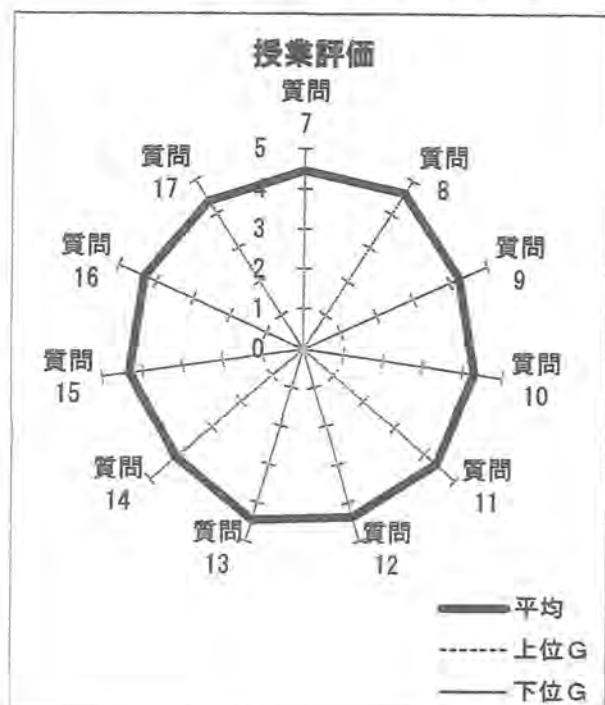
2019年度担当予定科目名： 建築設備

2019年度も同じ科目を担当する。以下に関して取り組む。

- ・話し方に関して、少し、強弱をつけた説明を試みる。
- ・全体的な理解向上と、理解できたことを実感できるよう、授業内容の改善に努める。
- ・興味関心に繋がる様な話題提供を試みる。
- ・受講人数にあった教室を選定し、質疑応答などがしやすい環境へ改善する。

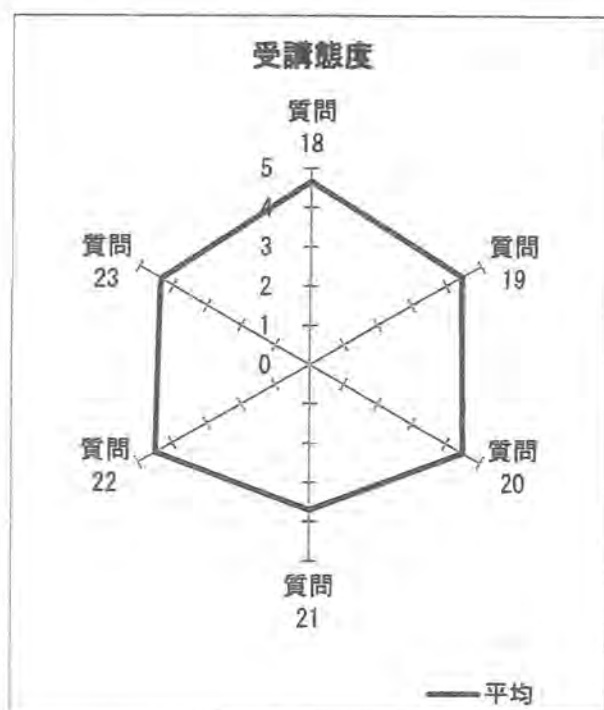
科目コード 708 (2018年度 後期)

健康生活学部 生活デザイン学科 毛利 洋子 学科特別演習



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.5	4.5	#DIV/0!
質問 8	4.6	4.6	#DIV/0!
質問 9	4.3	4.3	#DIV/0!
質問10	4.3	4.3	#DIV/0!
質問11	4.4	4.4	#DIV/0!
質問12	4.4	4.4	#DIV/0!
質問13	4.5	4.5	#DIV/0!
質問14	4.2	4.2	#DIV/0!
質問15	4.3	4.3	#DIV/0!
質問16	4.3	4.3	#DIV/0!
質問17	4.4	4.4	#DIV/0!
平均	4.4	4.4	#DIV/0!

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.5
質問20	4.5
質問21	3.7
質問22	4.5
質問23	4.4
平均	4.4

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	生活デザイン学科	毛利洋子	学科特別演習	25

2018年度後期授業評価アンケート集計結果： 教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

教員の話し方、教材・機器の効果的な活用、説明のわかりやすさ、学生の理解度の確認と反映、授業への興味関心を引き出せたか、の項目について、4.3前後の評価となっている。

話し方・説明のわかりやすさに関しては、直接的に理解度へも関連すると考えられる。また、演習科目のため、説明の為に白板を活用するのみだった。段階を追った説明と、図説の改良が必要と思われる。

教員の授業環境に対する配慮（私語の注意等）に関しても4.4であり、互いに相談する会話は認めているものの、そのような話し声以外には、敏感に対応する必要があると思われる。

学生の理解度の確認と反映に関しては、演習科目であり、個々の理解度にも差が生じ、理解できる学生の一方で、進まない学生には快適な授業環境になっていなかった可能性もある。また、質問への適切な対応よりも、この項目が低い評価となっている。こちらから全体に問いかける必要性や、段階を追って質疑応答の時間を確保する意識が必要と思われる。

全体の8割以上は、肯定的に捉える評価となっているが、残りの2割弱の学生、つまり数名のフォローを心がけたい。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：
 デッサン・基礎製図

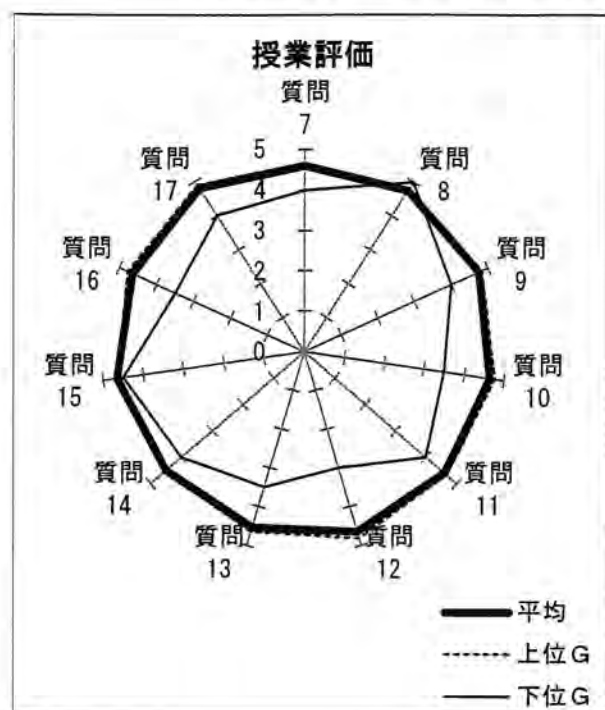
2018年度は、学科特別演習で実施した内容だが、2019年度からは、デッサンで対応する内容になる。

以下の取り組みを心がける

- ・説明時の話し方に関して、一つ一つ区切った説明、重要さについて強弱をつける事に取り組む。
- ・補足資料の活用、説明時の白板での図説を改良する。
- ・学生の理解度を、説明の段階を追って確認し、全体へ反映する。
- ・最終的に、理解できた、演習科目ができた、という感触が学生に得られる様、進みが遅い学生には、少し早い段階で個々の指導をする。

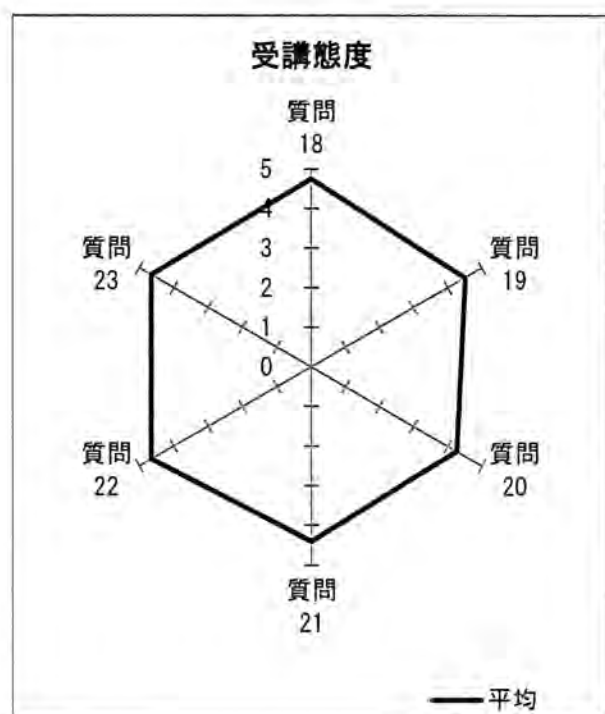
科目コード 709 (2018年度 後期)

健康生活学部 生活デザイン学科 浜谷 信彦 プロダクトデザインⅡ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.6	4.7	4.0
質問 8	4.8	4.7	5.0
質問 9	4.8	4.8	4.0
質問10	4.7	4.8	3.5
質問11	4.6	4.7	4.0
質問12	4.7	4.8	3.0
質問13	4.6	4.7	3.5
質問14	4.5	4.6	4.0
質問15	4.7	4.7	4.5
質問16	4.7	4.8	3.5
質問17	4.8	4.9	4.0
平均	4.7	4.7	3.9

- 質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
- 質問 8 : 教員の授業時間遵守
- 質問 9 : 教員の話し方
- 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
- 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
- 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
- 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
- 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
- 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
- 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
- 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.5
質問20	4.3
質問21	4.4
質問22	4.7
質問23	4.7
平均	4.5

- 質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
- 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
- 質問20 : 欠席回数(0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
- 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
- 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
- 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	生活デザイン学科	浜谷信彦	プロダクトデザインⅡ	15

2019年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

本講座「プロダクトデザインⅡ」では量産デザインについての技術・素材を中心に学ぶ実習科目である。プロダクト系科目群段では階的に少量から大量生産について学ぶ科目を配置しており、本講座「プロダクトデザインⅡ」では、「プロダクトデザインⅠ」型による造形、素材・技法等の内容を踏まえた上で、更に複雑な型による量産デザインのプロセスについて学び、プレゼンテーション用の写真撮影やCGによる画像補正加工までを行っている。実習助手と連携しサポート体制を整え、各工程においてスモール・ステップを心掛けた。

授業評価の平均値はすべて4.5以上で、質問項目8「教員の時間厳守」、9「教員の話し方」、17「新しい知識・技術・理論などへの有用性」は4.8と比較的高目であった。平均、上位Gの学生と比較して、下位Gでは多少バラつきが窺える。今後も、新しい知識・技術・理論などへの有用性を感じていただけるように研究を重ね、授業を構築していきたい。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：
デザイン論
プロダクトデザイン論
ビジュアルデザイン論
商品企画論
CGデザインⅠ
デジタルアート
プロダクトデザインⅠ
プロダクトデザインⅡ
インダストリアルデザイン
陶芸
専門セミナー（3年・4年）
卒業研究
生活デザイン研修
キリスト教と文化

特に実習系科目においては、学生個々の習熟度差や進度差があり、サポートが必要な場面が多々ある。実習助手とも連携して、一人ひとり、より効果的な学びの場となる様に授業の支援体制や環境などを整備していきたい。また、各授業において学生が能動的に参加する場面を増やすように工夫を重ねていきたい。

2019年度後期よりスタートする新設科目「商品企画論」をはじめ、現在と未来のデザインに求められる理論やスキルが身につけられるよう、学習内容を常に更新していく。